

平成 23 年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校 6 年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	話の内容を文脈に沿って正しく聞き取る力は、概ね身につけているが、話し方の工夫を聞き取りの正答率が低かった。	日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、話の要点の聞き取り方や内容を聞き取りやすい話し方について、継続して指導する。
説明的文章	「文脈に即した内容の理解」や「文章全体の内容の理解」は高い正答率であったが、「筆者の意見の根拠」を考える問題の正答率はやや低かった。	「〇字程度で答える」とう形式の問題では、はじめからあきらめてしまう子が見られるので、授業の中でこの形での問いに慣れさせる必要がある。
文学的文章	登場人物の様子を読み取ることや語句の補充はよくできたが、登場人物の心情や場面の様子を読み取る問題では正答率が低かった。	登場人物の気持ちを読み取るうえでかぎとなる語句をとらえる指導を続けながら、難解な語句や慣用語なども小まめに取り上げ、言葉に対する感覚を鋭くさせたい。
漢字	「読み」は大変高い正答率で市の平均をおおむね上回った。「書き」は正答率が低く、特に「限界」は 6 割以上の児童が正しく書くことができなかった。	新出漢字を学習する場合には、書き順や読み方だけでなく、漢字の成り立ちや意味、部首についても指導し、習得を図る。日常の表現指導（ノート、作文、日記、手紙）においても漢字を使う指導の徹底を図る。
言語事項	全体的に正答率が低く、市の平均を下回っている。特に 3 字の熟語の構成についての理解が低い。	熟語の構成について復習をするとともに、学習の中で折に触れ確認をしていく。
作文	他校に依頼する手紙は、概ねよく書けているが、本文中に依頼の言葉は書いているが、手紙を出した理由を書いていない児童が半数以上いた。	具体的な場面に即して、手紙を書く経験を積み重ねさせていきたい。「後付け」の書き方は、繰り返し指導していきたい。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	分数の計算は高い正答率であったが、「1m の重さが 4/5kg の鉄の棒 2/3m の重さ」を求める文章題では、式の立て方を誤った子が 3 割近くいた。	問題文に分数や小数が入ると、児童は答を予想しにくい。数値を整数に置き換えて考える習慣をつけさせたい。
量と測定	体積の問題については高い正答率であったが、速さ、特に道のりを求める問題では誤りが目立った。	道のりは「速さ×時間」であるが、文章から何を求める問題なのかを読み取れず割り算をしてしまっているので、類題に取り組ませたい。
図形	線対称や点対称になっている図形の判別は概ねできている。	線対称や点対称の図形の作図を通して、より理解を深められるようにしたい。
数量関係	反比例の式、比の一方の値についての正答率が市の平均を下回ったが、その他の問題については良くできている。	比例、反比例について表にまとめて考えたりグラフを見て式を考えさせたりして復習をしていきたい。